主任挨拶

　本日の令和元年度学位記授与では、128 名に学位記が授与され、卒業いたします。卒業生の皆さん、ご家族の皆様、ご卒業　誠におめでとうございます。
環境安全工学科教職員を代表して、皆様に心よりお慶びを申し上げます。

　皆さんは、元号が平成から令和に変わった記念すべき初めての卒業生であります。本日、皆さんの卒業にあたり、三つの事をお話ししたいと思います。

一つ目は　「感謝」　についてです。
　これまで皆さんを支えてくださった保護者の皆様、友人、そして、あるときは厳しく、またある時はやさしく指導してくださった先生方、職員の方々　への感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

二つ目は　「目に見えない皆さんの財産」　についてです。
　皆さんが卒業まで過ごした日本大学は、昨年創立 130 周年を迎え、卒業生は 116 万人を超える日本屈指の伝統校です。また、環境安全工学科もおととし、創立 10 周年を迎えました。卒業生も様々な分野で活躍しています。皆さんは、このような恵まれた土台の上に立って、まさに今、羽ばたこうとしているのです。社会に出てから、この「日大ネットワーク」のありがたさが実感できるのではないかと思います。また、皆さんの貴重な財産となったこのネットワークを、今後大いに活用していただきたいと思います。

三つ目は　「卒業への自信と誇り、そして新しい事への挑戦」　です。
　皆さんを取り巻く社会状況は大きく変わろうとしています。AI や IoT などの先端技術が急速に高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられていく超スマート社会 Society5.0 時代が間近に迫っております。また、環境安全工学科の目指す姿の一つである持続可能な開発目標「SDG s 」という世界共通の目標の実現も皆さんの力が必要です。
　求められている人材は複数の専門分野を持ち、なおかつ、専門分野以外の知識も広く、全体の調整をしたり、複雑な課題を解決したりすることができる人です。環境安全工学科は、異なる学問分野を連携・融合させ、今までにない新しい学問“複合工学”を基礎としています。皆さんは、この複合工学をベースに日々研鑽を積み、知識を深めてきたのです。
これからの社会に不可欠な人材として自信と誇りをもって卒業してください。

「学歴なんか、かえって邪魔なことさえあります。それより学力の方が大事なのです。」という言葉を聞いたことがあります。皆さんは、本日卒業しますが、それは、「現在の皆さんの学力に学歴という証明書がついた」ということです。しかし学歴だけでは生きていけないのです。これからも学力を伸ばす努力を忘れないでください。

私は 6 年前に豊田中央研究所から日本大学に移ってきました。前職では 「障子を開けてみよ、外は広いぞ」 という言葉をたたき込まれました。トヨタグループの創業者 豊田佐吉 が事業家として成功し、中国上海に工場進出し、周囲の反対を押し切って家族で一時移住した時の言葉とされています。佐吉は息子の喜一郎に 「私は自動織機をつくった、お前は自動車をやれ。安くて性能の高い車を製造することが国のためになる」 と言ったそうです。そして、トヨタ自動車が誕生するのです。常に新しい事への挑戦が重要なのです。

障子の向こうには、今まで見えなかった世界が広がっている、勇気を持って障子を開けることで新しい世界がひろがり、可能性を開くことが出来る との思いです。グローバル時代の今こそ必要な言葉で、未来の日本を背負う皆さんも勇気づけられる言葉だと思います。

ところで、本日の令和元年度学位記授与を迎えるに当たり、新型コロナウイルス感染拡大という大きな問題が発生しました。卒業式の中止、謝恩会の中止、海外帰国学生の自宅待機など、誠に残念な事が数多くありました。本日出席できない卒業生もおります。大変悔しいでしょうし、教職員一同も同じ思いです。また、感染防止から 2 部制という変則的な形式になりました。皆さんの健康と安全が最優先です。どうか、ご理解ください。

本日で皆さんは卒業しますが、日大ネットワークを広げるためにも、また、様々な卒業関連行事が中止になった悔しさをリカバーするためにも、遠慮無く母校を訪ねてください。

環境安全工学科は、いつでも来校を歓迎します。

このような時だからこそ、暗くならず、明るく前に進みましょう。

最後になりますが、皆さんのご活躍を心より祈念し、私の挨拶と致します。

本日は、誠におめでとうございます。

令和 2 年 3 月 25 日

環境安全工学科　主任

秋濱　一弘